

# ダニエル・カールの

# 消防団 たずねあるき

第7回 静岡県沼津市

## はじめに

今回の「消防団たずねあるき」は東海道を西に向かって静岡県の沼津市にお邪魔しました。

沼津というと真っ先に思い出すのは干物です。干物と言ってもいろいろありますが、なんと言ってもアジでしょう。旅館の朝食の定番中の定番ですよ。オラはそれが大好きで、沼津はその一大産地です。だから沼津というと干物を思い出すんですね。

もちろん他にもお茶やみかんなどいろいろな名物があるようですが、なんと言っても水産業が盛んな土地ですから魚介類や水産加工品のイメージがあります。平成17年に同じく水産業が盛んな旧戸田村が編入されたことで、ますます水産業が盛り上がっているようです。

駅を降りて、構内をぶらっとしていても、ついつい干物に目が行ってしまいます。いやいやその前に消防団のお話をうかがいます。

## 沼津市消防団

**ダニエル** 今日はよろしくお願いします。

**山口団長** こちらこそよろしくお願いします。

**ダニエル** さっそくですが沼津市消防団について教えてください。

**山口団長** 1本部5ブロック13方面隊の下に40の分団があります。団員は現在、総勢907名ですが、残念ながら定数を下回っているところですよ。

**ダニエル** 約1,000人ですか。なかなかの規模ですね。人口はどれくらいなんですか。

**山口団長** 21万人弱です。県内の他の消防団と比べると人口の割には規模がやや小さいかもしれません。

**ダニエル** そうですか。消防団員募集についてどんな活動を行っていますか。

**山口団長** ホームページをはじめいろいろな形で広報したり、団員の友人・知人に頼って勧誘したり、一生懸命やってはいますがなかなか大変です。

**ダニエル** そうですか。消防団員を確保することにはみんな苦勞しているようですね…

どのような職業の消防団員さんが多いですか。

**山口団長** 職種は様々でありとあらゆる職業の人が集まっているのですが、就業形態としては被雇用者、つまりサラリーマンが全体の

## 消防団たずねあるき



前列右から山口団長、ダニエル、山口指導員、後列左から川口分団長、野田分団長、尾沢副分団長

73%を占めています。これは全国的な傾向だそうですが、沼津市でも昔は農業、漁業をはじめ自営業者が多かったですね。隔世の感があります。

**ダニエル** サラリーマンが多いと訓練の日程を決める際など、いろいろと調整が大変じゃないですか。

**山口団長** 沼津市消防団では、先程申し上げた5つのブロックの自主性を重視した活動を行っています。訓練についてもブロックで独自に行っており、どのブロックもなかなか熱心に活動していますので、毎日のように市内のどこかで訓練が行われています。

**ダニエル** 平均年齢はどれくらいですか。

**山口団長** 38.8歳です。20歳代が164名、30歳代が430名、40歳代175名、50歳代107名、60歳代も31名います。平均年齢をもっと下げたいのですが…

**ダニエル** 子どもを対象にした消防クラブなどがありますか。

**山口団長** 市内の各地域にあります。

**ダニエル** その子どもたちが社会人になって入団してくれば平均年齢も下がるでしょうね。

**山口団長** そうですね。最近は大学生を消防団に勧誘しようという動きや、企業に協力していただいて、消防団員を確保しようという動きもあります。

**ダニエル** そういった取り組みが、いつかきっと実を結ぶと思います。

**山口団長** そう願っています。企業に協力してもらった場合、全国的には税制上の優遇や入札上の優遇などの制度を取り入れている自治体もあるそうで、どこまでできるのか難しい部分もあるでしょうが、団員確保のためには、そういった取り組みも必要だと思います。

## 消防団たずねあるき

**ダニエル** 沼津市ならではの消防団活動を教えてください。

**山口団長** ご存知かもしれませんが、伊豆半島から紀伊半島間の海域のどこかで大きな地震が起きることが想定されています。

言われ始めてからもう30年ほど経つのですが、見方によっては年々起きる可能性が高まっているとも言えます。ですから、地震発生の際の津波に備えて、毎年2回水門の開閉などの訓練を行っています。

**ダニエル** 以前、取材で伊豆に行ったときに大きな水門を見せていただきましたが、地震による津波対策のものということでした。準備が進んでいるなあと思いましたが、こちらでも同じように準備が進んでいたのですね。

**山口団長** 沼津港にも大きな水門があります。自分たちの地域は自分たちで守る事を基本的に、われわれ沼津市消防団は災害に強い消防団を目指しています。

**ダニエル** 消防団というと火災に対応することをメインに活動するというイメージがありますが。

**山口団長** もちろん、それも重要な活動です。それと同時に近い将来に起こると言われている地震に備えないわけにはいきません。

**ダニエル** とても忙しいですね。

皆さんが消防団員として活動される中で苦労されているところを教えてください。

**川口分団長** 私は分団長で、自分の分団は30人体制で活動しています。年齢構成は20歳代前半から40歳代後半です。同じひとつの目的で活動するのですが、20歳も年が離れた人を同じように活動させるのは難しいです。40歳代くらいになると、ある程度、社会的な責任も感じてい

て消防団活動に積極的に関わってくれるのですが、20歳代の社会人になりたての年代の人は、休日を使ったり、仕事の都合をつけて消防団活動をやるという切り換えがなかなかできないようです。

消防団の場合、活動は集まった人員でやらなければなりませんから、そこが一番苦労している点です。

**ダニエル** リーダーとしては辛いところですね。

**川口分団長** それと、あるサラリーマンの団員が「消防団活動のために早退したい」と職場の上司に言ったところ「それでメシを食ってるのか」と言われてしまったそうです。私の立場では「それでも出てこい」とは言えません。「仕事を最優先にしてください」と言わざるを得ません。

また、活動は防災活動中心にと考えています。地震による災害などの活動には消防団が多いに役立つと思いますが、1年や2年の訓練で十分な経験もなく消火活動を行うことには無理があると思います。消防署がメインになって行わべきです。

ですから、消防団は防災活動をメインにして、その他にどんな事ができるかを考えて活動すべきだと思います。

**ダニエル** アメリカのボランティアファイヤーファイターとは違った形ですね。あちらはまず、消火活動というイメージですけども。

**消防署から** 沼津市の中心部の場合、火災の際には、消防団は主に消防署の消火活動を後方で支援する役割を担い消防団と消防署が一体となって活動しています。

**川口分団長** 過去には、火災があると消防団

## 消防団たずねあるき



対談風景

員が突進して行ってしまうような状況もありました。消防団員も消火のための訓練をしていますが、自分たちの訓練、経験でどこまでできるのかを知って、自分たちのやるべき事をやるのが重要だと思います。

**ダニエル** なるほど。

他の方はいかがですか。

**尾沢副分団長** 一番苦労しているのは、若い人に消防団活動を理解してもらえず、なかなか入団してくれる人がないということです。入団してくれても、先ほどの川口分団長のお話にあったような事情でなかなか訓練に参加してもらえないことがあります。

長期にわたって訓練をしないと消防団員としてのスキルは身に付かず、的確な行動や事故を未然に防ぐことができませんから、活動もできないということになってしまいます。若い人が入ってくれて訓練に参加してくれれば、その人の消防団員としてのスキルアップに努力したいと思っているのですけれどね。

消防団の場合、訓練できる時間自体もあまり

多くありませんし、職種もバラバラです。私の所属する分団は22名の体制ですが、火災現場活動でも訓練でも全員が集まれる日というのは、なかなかありません。そういったところも難しいです。

**ダニエル** いろいろとご苦労がありますね。今のお話で事故を未然に防ぐということでは消防基金のS-KYT研修などがありますよね。

**尾沢副分団長** そうですね。私は建築業なので職場でKYTを経験していますし、ある程度は身につけています。でも、普段デスクワークをしている人にはまったくなじみのないものでしょうから消防団でS-KYT研修を受けて、自分の身を守るという感覚を少しでも持ってもらいたいと思います。火災現場での消火活動ももちろん重要ですが、一番大切なのは自分の身を守るということです。まず、それを覚えてもらいたいです。

**ダニエル** そうですね。自分の身を守らなければ、しっかりとした消防団活動はできないわけですからね。

# 消防団たずねあるき

そちらの方はいかがでしょうか。

**野田分団長** 私もやはり団員にケガをさせてはいけないと常々考えています。

私の地区は沼津市に合併される前は村だった沿革から、現在も消防署の分遣所はありますが、救急車が出ると消防職員が出払ってしまうため、その間にもし火事があった場合には消防団が消火に当たる事になります。

幸いにも近年はそういう状況はありませんが、もしもの時に備えるために、火災出動の経験がない若い団員に自分たちの火災出動の経験やその時の苦労話を伝えたいという思いがあります。

**ダニエル** 同じ分団の中でもジェネレーションギャップがあるということですかね。

**野田分団長** そうですね。40歳代以上の団員は戸田村時代の火災出動の経験がありますが20歳代の人には経験がありませんね。年代が違ってとても良い関係が築けているので、何かの機会に話したいと思っているのですけどね。

**ダニエル** 若い人にとっても、経験者の話を聞くということは良い事だと思います。

そちらの方はいかがでしょうか。

**山口指導員** 私は分団ではなく消防団本部の指導部に所属しており、ポンプ操法などの指導をしています。沼津市内を指導で回りますので、各地域の特性はある程度知っています。訓練の際には、時間帯を夜間の遅い時間にするなど各分団長が団員を集めるのに苦労されていることも知っています。われわれとしても人が集まらなければ指導ができません。

先ほどの野田分団長のお話を聞いていて思いだしたのですが、20歳代の半ば頃、山火事があってその消火活動に出動したことがありまし

た。消火活動中に前に行こうとしたらベテランの先輩団員に止められ、「早く逃げろ」と言われたことがありました。自分はなぜ先輩がそんな事を言うのか分からなかったのですが、その後、その場所は大きな炎に包まれてしまいました。あと5分その場所に居たら死んでいたと思います。先輩は過去の経験から危険を予知したのです。

**ダニエル** 訓練や経験をしなければ活動はできないけれども時間はそうはとれない。そして消防署との連携も必要になるといって大変ですね。消防団はどのように活動したら良いのでしょうか。

**川口分団長** 初期消火に当たることは当然必要なことです。消防団が初期消火を行って消火できればそれが理想です。でも火災がある程度の規模になってしまっただけで危険な状態なのに、十分な装備もないまま炎に向かって行ってしまっている人がいます。そうなったら署員の方に任せるしかないと思います。二次災害になって、その人が大ケガをしてしまいその後の生活に影響が出てしまったら、消防団の活動自体が問われることになりかねません。どこまでやるのかを明確にして活動する事が必要だと思います。消防署員とまったく同じ活動をする必要はないと思います。

**山口指導員** 初期消火であれば、消防団のOBと連携するなどの方法もありますね。

**川口分団長** それは確かにメリットがありますね。それと私は、月に一度、地域を一軒一軒まわって高齢者がその家のどこに寝ているか確認するなどの地道な活動が必要だと思います。消防団は地域に根ざしていますから、そういう情報を把握して、万が一災害が起きたときには

# 消防団たずねあるき

救助に役立つ。そういった活動をするのが今の消防団だと思います。また、それができなのが消防団の良い所だと思います。

**ダニエル** その地域のデータを把握して、地域防災に役立つ。確かに地域に根ざした消防団ならではの活動ですね。

**川口分団長** 消防署員は消火の能力などは消防団員よりはるかに実力が上だと思います。ただ、地域の情報を集めることは、消防団員の方が得意だと思います。ですから後方支援をして情報を提供するという活動ができます。

**野田分団長** 戸田では、消防署員が3人しかいないこともあって、火災やその他の災害に備えて署員と団員が合同で活動することが前提となっており、訓練も合同するのが通常です。地域によっていろいろあります。

**ダニエル** キーワードはコミュニケーションですね。分団の中でのコミュニケーション、消防署とのコミュニケーション、地域とのコミュニケーション他にもいろいろありますね。大変な事でもあるでしょうけど大事なことですよね。いやー今日は良いお話がききました。

地域の方の消防団に対する感覚は昔と変わりましたか。

**山口団長** 昔は子どもが成人すると親が消防団に入れたがりました。特に長男は消防団に入るものだという自然な流れがありました。極端な話ですが、消防団に入っていないとお嫁さんもらえないというような時代もあったようです。

先ほどから話が出ているように、今はなかなか入団してもらえません。ですから、幹部で退団された方に再入団してもらったり、消防団OBを中心とした地区消防隊などの対策を取っ

ています。

**ダニエル** 地域住民の期待は感じますか。

**山口団長** 沼津では、先ほどお話しした大地震が想定されているため、住民からは大いに頼られていると感じます。

**ダニエル** そうですか。

みなさんが消防団に入ったきっかけを教えてください。

**野田分団長** 区長さんなど地元の顔役が家を訪ねてきて勧誘されました。

最初に入団したのは21歳の時でした。当時は3年の任期で、3年経つと一度退団して、同じ職場の他の人が入団してその人が退団するとまた誰かが入団するというようにローテーションのような形でした。ですから私は3回入団しています。

**ダニエル** 一度辞めてまた入るわけですか。

**野田分団長** 戸田の場合はそうでした。

**ダニエル** 団長さんはいかがですか。

**山口団長** 誘われたからです（笑）。

私も同じように地元の方々に誘われまして、二つ返事で入団しました。消防団には入るものだと思っていました。

**ダニエル** 尾沢副分団長はいかがですか。

**尾沢副分団長** 私の場合は先祖代々今の地域に住んでいて、親も消防団員でしたので、いずれ入団するものだと言われていました。地元の先輩もみんなそうでした。

**ダニエル** 親が消防団員だとやりやすいとかやりにくいとかありましたか。

**尾沢副分団長** 当時、私の住んでいる地域にはまだ消防署がなかったので、消火活動が消防団のメインの活動でした。普段、親に言われていた事が活動に役立ったと思います。

# 消防団たずねあるき

**川口分団長** 私の住んでいる地域は、ここから車で30分くらいのところで、学校を卒業して家業で働きはじめたら、親に「お前はもう消防団に入っているから」と言われました。周りの同世代の人も同じような形で入団したようです。

6、7年勤務し一度退団しましたが、再入団を要請されまして、気が進まなかったのですが地域のためと思って再入団しました。でも、今は再入団して良かったと思っています。消防団では楽しい付き合いができます。

**ダニエル** 消防団では楽しい付き合いができるということは、あちこちで聞きますね。

ところで、S-KYT研修を実施されているようですが、どういう経緯ではじめられたのですか。

**山口団長** 最初に、同じ消防基金の研修である安全管理セミナーを開催し、その中で紹介されていたS-KYT研修を開催する事にしました。

災害現場はもちろん、公務災害全体の中で高い割合を占める訓練時の公務災害を防止するために何らかの対策が必要だと感じていたからです。

S-KYT研修は平成20年からはじめて今年で3年目です。ブロックごとに開催して、今年で市内の5ブロックを一巡しました。

**ダニエル** 初めて研修を受けたときはどうでしたか。びっくりしましたか。

**山口指導員** 指差し呼称など、初めは何だろうと思いましたが、消防団活動の中にある危険を意識しながら行動することが公務災害防止につながる事が理解できました。

**ダニエル** S-KYT研修の効果はいかかでしたか。

**野田分団長** 操法でもホースを接続するときには「ヨシ」と指差し呼称をします。大部身についてきたとは思いますが。

**尾沢副分団長** 必ず効果はあると思います。指差し呼称をすることで、行動する際にワンクッション置けば、あせることもなく、次を考える余裕が出てくると思います。それが一番大事だと思います。

**ダニエル** 目の前の事をよく観察して、行動を決めるということですかね。

**尾沢副分団長** そういうことです。

**川口分団長** S-KYT研修はグループ単位で行いますが、消防団活動も一人で行うものではありません。そういう意味でもS-KYT研修は有効だと思います。

**山口指導員** 健康KYも有効だと思います。訓練前に各団員の健康状態をチェックして、調子が悪ければ休ませて見学させるなどの措置を徹底すれば、使命感から、つい無理をしてしまって、それが負傷につながるということを防げると思います。

**山口団長** S-KYT研修終了後に受講した団員が研修の感想をアンケートとして提出するのですが、それを見てもとても好評です。

**ダニエル** 研修以外で公務災害防止に取り組んでいることがあれば教えてください。

**川口分団長** 一人で活動しないということがあります。どんなに簡単なことでも一人で活動せず、一人で作業をする場合であっても、もう一人がそれを確認するという形を取っています。

**山口指導員** 例えば、訓練にあたって最初と最後に番号を言いますが、最初に番号を言うことで人数の把握がされ、訓練の規模などが確認

# 消防団たずねあるき

でき、的確な行動につながります。最後に番号を言うことによって全員で訓練を終了した事が確認できます。このように、普段の訓練の中にも安全管理という視点は含まれています。

**ダニエル** なるほど、そういうことですね。一度、消防団の訓練を見てみたいですね。

**山口団長** ぜひ、見学にいらしてください。

**ダニエル** 消防団のどんなところに魅力を感じますか。個人的な意見で結構です。

**川口分団長** ボランティアであるということがあります。他に仕事を持ちながら地域の防災のために働くということで、かなりの自主性が養われると思います。それと、社会人になって勤めに出てしまうと、たとえその地域に住んでいたとしても、勤務中はその場所から離れているので地域との関係が希薄になってしまい

ます。そういう人でも消防団に入団することで地域と関わる機会ができるということがあります。

**尾沢副分団長** 先ほどダニエルさんが「キーワードはコミュニケーション」と言われましたが、まさにそれだと思います。年齢も職業もさまざまな人が集まって、一緒に活動することで、お互いに知らないことを教えあうことができ、大いに見聞が広がります。

**野田分団長** 同感ですね、自分たちとは違う世代の若い人とコミュニケーションをとれ、いろいろな話を聞くことができます。それが魅力です。若い団員に連れられて50歳になってはじめてキャバクラに行きました（笑）。

**ダニエル** それは良かったですね（笑）。

**山口指導員** なんとと言っても、いろいろな人



なごやかに

# 消防団たずねあるき

とめぐり会えることが魅力です。私の場合は指導員になったおかげで沼津の全域に行くことができ、本当にいろいろなすばらしい人たちと出会うことができました。

**ダニエル** 社会人になると、どうしても同じ職業とか同じ会社の人とばかり付き合うことになりがちですよ。違う職業の人々とふれあうことはとても楽しいですよ。オラも山形で劇団に入っていたときにそう感じました。

最後に団長、お願いします。

**山口団長** ひとつの仕事を終えたときの達成感だと思います。それに一番の魅力を感じます。ですから、みんなの力を借りて「楽しい消防団」、「やりがいのある消防団」にしていきたいと思っています。

**ダニエル** ありがとうございます。

もっとお話しをしていたかったのですが、残念ながら時間になってしまいました。皆さん本当に熱心にお話しをしてくださいました。

誌面からお伝えできたかわかりませんが、今回の対談はとてもエキサイティングなものでした。それぞれの地域の事を考え、それぞれ地域の特性を踏まえて消防団活動を熱心に行われていることが良くわかりました。

## おわりに

沼津市消防団は沼津市を守っているわけですが、同じ市内でも地域によっていろいろな特性があって、いろいろな活動形態が求められています。団長のお話の中に「市内にある5つのブロックそれぞれの自主性を重んじて活動している」とありましたが、それこそが地域から求められていることなのでしょう。

ひとつの消防団の中でも、地域の状況によって、いろいろな地域防災のスペシャリストがいる沼津市消防団の皆さん、これからもがんばってください！